

明治乳業は工場から排出される産業廃棄物などの処理状況をインターネット上で一元管理するシステムの運用を始めた。廃棄物の処理コストを管理し、排出量の削減に取り組むことで、目標とする全工場のゼロエミッション

# 食 デジタル時代

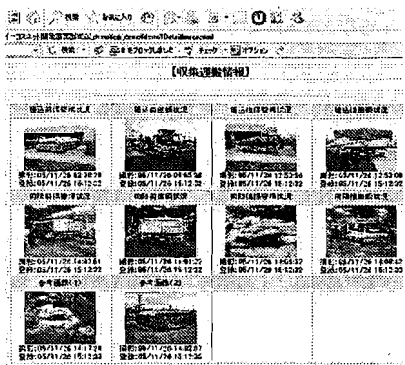
▶デジタル (digitable) デジタル(digital)技術を活用して生産・加工された食物を表す造語。野菜(vegetable)をはじめとする様々な食材・食品の生産過程でデジタル技術の応用が可能(able)になった結果、家庭のテーブル(table)の上に確固たる地位を築きつつある。

に導入したシステムは「ECOS NET(イーコス・ネット)」。産廃処理管理のイーコス(東京・中央)が開発した。排出物の処理を品目ごとに管理し、排出状況などがリアルタイムで確認できる。処理過程を記録した産業廃棄物管理票(マニフ

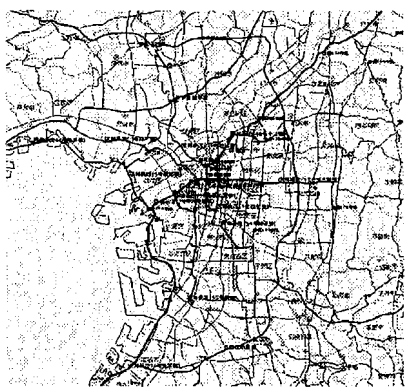
## 明治乳業 排出物処理、ネットで管理

エスト)をインターネット上で一括管理することによって、廃棄物の排出量や排出に至る流れ、処理費用の履歴なども把握できる仕組み。

工場だけでなく、本社情報も閲覧できるように、従業員の間を張り巡らして、排出量や排出コストで、排出量や排出コスト



画像データで排出状況を監視(写真上)。GPSを用いて廃棄物積載車両のルートを確認



画像データで排出状況を監視(写真上)。GPSを用いて廃棄物積載車両のルートを確認

## GPSで投棄状況つかむ

合わせたのが特徴だ。産廃処理管理のアクセスが容易なインターネット上を、青森(東京・港)が開発したシステムを導入。GPSと画像処理技術を組み合わせ、廃棄物の積載場所や処分場まで正しいルートを通っているか、定められた処分場で廃棄物を処理しているかなどをパソコン上で画像でも把握できるようにした。

これまでは明治乳業では優良な処理業者を選定し、たうえで、処理現場の視察などを行い、産業廃棄物の不法投棄などに巻き込まれないよう注意を払ってきた。新システムの導入により、「不法投棄に巻き込まれるリスクをゼロに近づけたい」(青木隆明・生活環境室長)と、排出事業者として社会的責任の徹底につながる効果が期待する。

明治乳業は二〇〇八年度までに全工場ゼロエミッション化と、リサイクル率九八%以上の達成を目指している。〇五年十二月までのリサイクル率の達成度は平均八三・三%で、「まだ改善できない余地は大きく残っている」(青木室長)。

(岩野孝祐)